

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

☆校訓 誠実・明朗
☆めざす学校像
1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題を共有し、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が成長し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）
☆育てたい生徒像 “3つのC”
○ 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
○ 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
○ チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジし、やり抜こうとする人間

2 中期的目標

1 教育力の向上
（1）教育課程に基づいた教育活動
ア 学習指導要領に基づく学習指導、学習状況評価をより適切に行う。
（2）確かな学力の育成
ア 基礎学力を身につけるための山田 BT（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を更にブラッシュアップする。 ※令和 10 年度までに BT アンケートにおける満足度に関して肯定的回答 80%をめざす。（R 7：76.6%）
イ 授業での取組み及び山田 BT 等により、自主学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 ※令和 10 年度までに、学力生活実態調査において平日における一人あたりの家庭学習時間の平均を 90 分以上とする。
ウ 「論理・表現Ⅰ」及び「英文法発展」の授業において習熟度別授業を実施する。
エ 教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 ※図書館の延べ利用人数を令和 10 年度には 4500 人以上とする。（R 5：3357 人,R 6：4139 人,R 7：5382 人）
オ 総合的な探究の時間で活用するプログラムの内容を精査しブラッシュアップを継続する。 ※事後アンケートにおける満足度や参加度に関しての肯定的回答 80%をめざす。（R 7：82%）
カ 教科等横断的な学びに対する取り組みの充実をはかる。
（3）授業力の向上
ア 授業充実 PT を核に全教科で「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内の ICT 環境（電子黒板・1 人 1 台端末）を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。 生徒自らが考える授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能・思考・判断・表現）の向上を図る。 ※研究授業・公開授業の実施回数を、令和 10 年度まで引き続き年間 10 回以上とする。（R 5：14 回，R 6：10 回,R 7：10 回） ※授業アンケートにおける「7：思考力・表現力が身についた」の平均値 3.4 以上を維持する。（R 6：3.34,R 7：3.16） ※授業アンケートにおける「8,9：興味関心、知識技能が身についた」の平均値 3.4 以上を維持する。（R 6：3.37,R 7：3.26）
イ 校外研修の活用を進める。
ウ 希望進路を実現する。 ※令和 10 年度まで国公立大、難関私大合格者数 150 人以上を維持する。（R 5：225 人（8 クラス）,R 6：242 人（9 クラス）,R 7：224 人（9 クラス））
（4）3 年間を見通したキャリア教育
ア 大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。 ※進路説明会・補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。
イ 同窓会や地域の企業・団体と連携したキャリア教育を実施する。 ※卒業生によるキャリア講演会を年 1 回実施する。
（5）グローバル人材の育成
ア 姉妹校である Bentleigh secondary college や台北市立大安高級工業職業学校との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。 ※今年度は本校が大安高校を訪問し交流を行い、Bentleigh は本校に招待し交流を行う。
イ イングリッシュカフェを適宜開催し英語でコミュニケーションする場を設ける。
2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ
（1）部活動や特別活動を通じ、生徒の自尊感情を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越える力を育成する。
ア 部活動加入率を、令和 10 年度までに 90%以上をめざす。（R 5：85.6%,R 6：85.6%,R 7：88.9%）
イ 修学旅行を通じ、生徒の非認知的な力を伸ばす。
（2）生徒会活動の活性化
ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。
イ 学校生活における自治意識を高める。
（3）生徒指導を進める
ア 遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。遅刻指導をより一層浸透させるため保護者の協力を得る。
イ 交通安全指導を継続する。警察・地元自治体・PTA と連携した企画を立案し実行する。（R 7：0 回）
（4）校内美化の推進
ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。
（5）人権尊重の教育の推進
ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。
（6）安全で安心な学びの場づくり
ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。
イ 教育相談・支援教育の充実：定期的なアンケート調査で生徒の状況把握に努め、生徒支援の充実を図る。
ウ 食物アレルギー、個別の課題への対応を進めることで、安全で安心な教育環境を作る。
（7）自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒める場を作る。
ア 始業式・終業式等で、部活動の成果等を伝達表彰する。

イ HR・学年集会・授業等で、生徒の成長に資する取り組みを進める。	
3	学校の組織力向上と開かれた学校づくり
(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。	
ア 各種会議、各学年の連携、組織的な対応がスムーズにいくようにする。	
(2) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。	
ア 業務負担の平準化、分掌再編、安全衛生委員会の活性化等により、働き方改革を図る。	
※令和10年度には年間の時間外在校等時間が720時間を超える教職員を0人にする。	
イ 部活動方針を徹底し、部活動の在り方に係る適切な体制を構築することで、教職員の時間外在校等時間の更なる縮減を図る。	
※令和10年度には年間平均時間外在校等時間26時間以内をめざす。(R6：29.0, R7：28.7)	
(3) 保護者・地域との連携	
ア 地域の行事へ積極的に参加し、地域連携を深める。	
イ PTAとの連携により、生徒の成長を促進する。	
(4) 教育活動の情報発信	
ア 教育活動の情報発信について、全校的に取り組む。	
イ ホームページ（校長通信を含む）、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める。	
ウ 大阪教育ゆめ基金の活用を推進する。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R7年度値〕	自己評価
1 教育力の向上	(1) 新教育課程に基づいた教育活動	ア・新学習指導要領に基づく学習状況評価をより一層適切に行う。 ・大学より専門家を招聘し研修を開催することで最新のトレンドを把握する。	ア・学校教育自己診断(生徒)における学習評価の肯定的回答 90%以上の維持。 〔91.9%〕 ・研修は1回開催し事後アンケートにおける満足度に関しての肯定的回答 80%をめざす。〔50%〕	
	(2) 確かな学力の育成	ア・再構築したBTの内容を更にブラシュアップし、年度末のBT アンケートにおける満足度及び参加の度合いを高める。 イ・授業での取組み及びBT等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。山高スタンダードの浸透を図る。 ウ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 エ・新たに開発した総合的な探究の時間のプログラムを通して主体的な探究活動を推進する。提携先の開拓に努める。 オ・教科等横断的学びに対する取組の充実をはかる。	ア・BT アンケートにおいて満足度や参加度に関しての肯定的回答 80%をめざす。 〔76.6%〕 イ・学力生活実態調査において平日における家庭学習時間の平均90分以上をめざす。〔新規〕 ウ・利用を促進し年間の利用者数 4000人以上を維持。〔5382人〕 ・貸出冊数 800冊以上を維持。〔1018冊〕 エ・事後アンケートにおいて満足度に関しての肯定的回答 80%を維持。〔82%〕 ・新たな提携先を1つ見つける。〔新規〕 オ・校内研究授業を1回以上実施する。 〔新規〕	
	(3) 授業力の向上	ア・ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内のICT環境を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。決してICTを使うことが目的とならないよう留意する。また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。今年度は公開対象に近隣の中学校も含む。同時に、近隣中学校の授業を見学する機会を設ける。	ア・ICTを効果的に活用した授業実践を継続する。学校教育自己診断の「ICT機器の活用」の肯定的回答について、教員・生徒とも85%以上を維持。〔教員98.3%、生徒96.1%〕 ・学校教育自己診断(教員)の「学習形態の工夫・改善」の項目で90%をめざす。 〔86%〕 ・研究授業・公開授業を年間10回以上実施する。〔10回〕 ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均値3.3以上をめざす。〔3.16〕 ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均値3.3以上をめざす。 〔3.2〕	

府立山田高等学校

	（４）３年間を見通したキャリア教育 （５）グローバル人材の育成	イ・校外研修の活用を進める。 ウ・希望進路を実現する。 ア・大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。 イ・同窓会や地域の企業・団体と連携したキャリア教育を実施する。 ア・姉妹校である Bentleigh secondary college や大安高級工業職業学校との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。 イ・イングリッシュカフェの運営	・近隣の小学校・中学校への授業見学の機会を各１回設ける。〔１回〕 イ・校外研修への参加者 40 人以上をめざす。〔25 人〕 ウ・国公立大学、難関私立大合格者数の維持。〔224 名〕 ア・生徒・保護者向けの進路説明会や、学力生活実態調査・実力考査を 7 回実施。〔9 回〕 イ・卒業生等によるキャリア教育を各学年とも年 1 回以上実施。〔２回〕 ア・今年度より 2 つの姉妹校との交流を行う。〔１回〕 交流後のアンケートで満足度に関しての肯定的回答 90%を維持。〔92%〕 ・英語を用いた交流や、教科等での国際理解教育を 4 回実施する。〔４回〕 イ・イングリッシュカフェを各学期 1 回開催。〔２回〕	
2 豊か でた くま しい 人間 力の はぐ くみ	（１）部活動や特別活動を通じた豊かでたくましい人間性の育成 （２）生徒会活動の活性化 （３）生徒指導を進める （４）校内美化の推進 （５）人権尊重の教育の推進 （６）安全で安心な学びの場づくり （７）生徒の成長の場を作る。	ア・部活動への積極的な参加を促す。 イ・修学旅行を通し、生徒の非認知的な力を伸ばす。 ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。 イ・学校生活における自治意識を高める。 ア・遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。特に長期休業あけの指導を強化する。 イ・交通安全指導を継続する。 警察・保護者、地域等と連携しながら、教員・生徒会による登校指導を実施する。 ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。 ア・生徒が様々な立場の人々の人権を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。 ア・いじめを許さない体制作り イ・教育相談・支援教育の充実 ウ・安全で安心な教育環境を作る。 ア・生徒の成長に資する取り組みを進める。	ア・部活動加入率 85%以上の維持。〔88. 9%〕 イ・修学旅行後のアンケートでの満足度 95%以上の維持。〔97. 4%〕 ア・学校教育自己診断(生徒)における体育祭・文化祭に対する肯定的回答 90%以上をめざす。〔89. 9%〕 イ・生徒会執行部発信の取組みを 3 回以上実施。〔４回〕 ア・遅刻総数前年度より減少させる。〔1191 人〕 ・服装・頭髪違反者なし イ・地域等と連携した登校指導を 1 回以上実施〔０回〕 ・学校教育自己診断(生徒)における学校規律に関して肯定的回答 90%以上をめざす。〔88. 7%〕 ア・トイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化に努めるとともに 毎日の清掃活動を徹底する。 ・終業式後等に一斉大清掃を年 3 回以上行う。〔３回〕 ア・人権研修を年 1 回以上実施する。〔１回〕 ・学校教育自己診断（生徒）における関連項目において肯定的回答 90%以上をめざす。〔89. 7%〕 ア・いじめ事案の未然防止、生徒対応ができたか。 イ・生徒個々の状況に的確に対応できたか。 ウ・校内での重大事故を 0 にする。〔０件〕 ア・１年生対象の仲間づくり HR を 1 回実施。〔１回〕	
3 学 校 の 組 織 力 向 上 と 開	（１）組織力向上:常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する （２）大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。	ア・各種会議、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。 ア・業務負担の平準化、分掌再編、安全衛生委員会の活性化等により、働き方改革を図る。 イ・部活動方針の遵守や安全衛生委員会の活性化により働き方改革を図り教員の負感を減らす。	ア・学校運営についての連携に努め、学校教育自己診断(教員)の連携項目肯定的回答 75%以上をめざす。〔70. 2%〕 ア・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員を 0 人にする。 イ・年間平均時間外在校等時間 28 時間以内をめざす。〔28. 7 時間〕	

府立山田高等学校

か れ た 学 校 づ く り	(3) 保護者・地域との連携	ア・地域の行事を精選した上で、積極的に参加し、地域連携を深める。	ア・地域教育協議会、地域行事への教員・PTA・生徒の参加 10 回以上を維持。[10 回] ・学校行事への地域からの参加者 20 名以上をめざす。[12 名]	
	(4) 教育活動の情報発信	イ・PTA との連携により、生徒の成長を促進する。 ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。 イ・ホームページ、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める ウ・大阪教育ゆめ基金の活用を推進する。	イ・PTA と連携した行事を 6 回以上実施する。[6 回] ア・学校説明会後のアンケートでの満足度 90%以上を維持。 [96. 4%] イ・学校教育自己診断（保護者）の連携、情報提供の項目肯定的回答 80%以上を維持。[80. 9%] ウ・卒業生に基金の存在を周知する機会を設け基金の収益拡大をはかる。[新規]	